

Fender Amplifiers Features



フェンダーのアンプは、PAシステム以外に真空管(Tube)を採用しています。楽器用アンプとしては、ほかにトランジスタやFETといった新しいものを使用したものもありますが、フェンダーではあえて真空管アンプを研究し続けています。フェンダー・サウンドを好む奏者から限り、フェンダーは真空管式を採用します。これは、フェンダーの一貫したポリシーと誇りの現れです。

6L6GC、6V6GTA、6550など、すべての真空管には、フェンダーのブランド・ネームを入れており、このことからフェンダーの生産管理に対する自信を見ることができます。

■ボディ

フェンダーのアンプは、アンプ部とスピーカー部がセパレートになったタイプと、一体化したタイプの2タイプがあり、演奏者の使用状況に合ったアンプが選べます。すべてのモデルは3/4インチのウッド・キャビネットにブラック・ビニールでカバーリングされたボディを持ち、ハードな扱いにも耐えうるよう、各コーナー部分にクローム仕上げのコーナー・プロテクターが付けられています。

また、運搬時におけるメリットも考え、大型モデルのほとんどには、取りはずしのできるキャスターが取り付けられています。

さらに、ギター・アンプの数モデル(Twin Reverbなど)には、音の遠達性を向上させる為、アンプ本体を斜めにセットするサイド・アングルも備えています。

ギター・アンプの場合、6W、12Wが各2モデル、20W、40Wが各1モデル、70W、135Wが各3モデル、180W、300Wが各1モデル、ベース・アンプは12Wが1モデル、70W、135Wが各2モデル、200W、300Wが各1モデルとなっており、ギターだと8タイプ、ベースだと5タイプの中から、ステージ、レコーディング練習など、その使用目的にマッチした出力のアンプが選べます。

■コントロール

フェンダー・アンプは、すべて、コントロール・パネルが傾斜してセットしており、コントロールしやすくなっています。

インプットは、ギター6機種、ベース3機種に1チャンネル2インプット方式を採用し、他のモデルはすべて2チャンネル(ギターはノーマル/ビブラト、ベースはノーマル/ベース)4インプット仕様です。

コントロールには、ボリューム、トーンの他、ビブラト・コントロール(ギター・アンプ)、リバーブ・コントロール(ギター・アンプ)、ディストーション・コントロール、ディストーション付マスター・ボリューム、アウトプット・レベル・コントロール、パワー・ブースト付ボリューム、プレゼンス・コントロール、5バンド・イコライザー、ディープ・スイッチなどがあり、各モデルにマッチしたコントロールを装備しています。

■スピーカー&エンクロージャー

音の出口でもあるスピーカーやエンクロージャーにも、独自のポリシーを持っています。例えば、同じ出力のコントロール・パネルを持ったアンプでも、スピーカーの個数やスピーカーの口径、あるいはスピーカー・ブランドを換えているのも、特徴のひとつです。

スピーカーによる音への影響は大きく、同じ出力のアンプであれば、スピーカーの数が多く、口径が大きい方が大きな音となります。フェンダーでは、あらゆる使用状況にマッチしたモデルが選べるよう、スピーカーにも注力しています。

ほとんどのモデルには、フェンダー・カスタム・スピーカーを使用していますが、JBL、エレクトロボイスといった高効率のスピーカーをマウントしたモデルもあります。

また、エンクロージャーも後面開放型からバスレフ、密閉型と豊富なタイプを採用しており、ギター・アンプでのシャープな高・中音域、ベース・アンプでの重低音域に完璧な表現力をモットーにしています。

